

2014 年度「ヤマハの森」記念植樹祭開催報告

- (1) 実施場所: グヌン・チレメイ国立公園ランボシール地区
(西ジャワ州クニンガン県チリムス郡スティアネガラ村)
- (2) 実施時期: 2014 年 12 月 10 日(水)
- (3) 目的: グヌン・チレメイ国立公園事務所、PT.ヤマハ・ミュージック・インドネシアおよび JICA は、合意書に基づき本国立公園内ランボシール地区において「ヤマハの森」づくりを通じた荒廃地回復活動を実施している。回復活動に対する地元行政や地域住民など各関係者の認識と理解を深め、積極的な参加を呼びかけることを目的として実施する。
- (4) 参加者 (合計約 250 名)
 1. ヤマハ: 39 名
 2. JICA: 12 名 (JICA 事務所 1 名、荒廃地回復プロジェクト 11 名)
 3. グヌン・チレメイ国立公園事務所: 23 名
 4. クニンガン県: 約 60 名(知事、副知事、県事務局長、地方議会、警察、軍、地方検察庁、地方裁判所、地域開発庁、地域環境管理庁、県森林・農園局、県農業局、県水道局等)
 5. 地元行政組織:約 20 名(チリムス郡、スティアネガラ村)
 6. クニンガン大学:約 30 名
 7. 児童・生徒: 約 50 名(小学生)
 8. 地域住民等:約 20 名

(注) 上記の数字の一部は計画段階のもので、コンサルタント(クニンガン大学)による実際の参加者の集計は本時点で報告されていない。
- (5) 日程
 - 4:00 ジャカルタ発(陸路)
 - 5:00 チカランサービスエリアにて宮川チーフアドバイザーがヤマハ関係者と合流
 - 11:20 リンガルジャティ自然観光公園にて車両の乗換
 - 11:30 記念植樹式典開始
 - 12:00 ヤマハ関係者および宮川チーフアドバイザーが記念植樹会場に到着
 - 14:00 記念植樹行事(ヤマハ関係者によるランボシール地区苗畑視察、昼食含む)終了

(6) 式典について

ヤマハ関係者および宮川チーフアドバイザーを乗せた車両がインドラマユ郡付近で異常な渋滞に巻き込まれたため、式典はヤマハ関係者の現地到着前に開始され、終了時間は大幅に遅れた(後の情報によると、インドラマユ郡内にて村長選挙が当日行われていたこと、また交通事故が発生していたことが渋滞の主な原因であった)。式典のあらまきは以下のとおり。

(i) プロジェクト活動の進捗状況報告

式典の司会はクニンガン大学のスタッフが務めた。最初に植樹祭担当者でもあるクニンガン大学のウカス氏からこれまでの植樹祭や回復活動等に関する報告があった。

(ii) 開会と挨拶

続いて、以下の6者から順次挨拶があり、クニンガン県知事により開会が宣言された。

- (i) クニンガン大学学長(イスカンダール氏)
- (ii) グヌン・チレメイ国立公園事務所長(パドモ氏、別添1-①・②)
- (iii) ヤマハ株式会社人事・総務部長(山下寛文氏、別添1-③)
- (iv) PT. ヤマハ・ミュージック・インドネシア取締役社長(笠井亮氏、別添1-④)
- (v) JICA チーフアドバイザー(宮川秀樹、別添1-⑤・⑥)
- (vi) クニンガン県知事(ハジャ・ウツェウ・チョイリアー・スガンダ女氏)

(iii) 記念品の贈呈

挨拶につづき、ヤマハから以下の参加者代表へ記念品^(注)の贈呈が行われた。

(注) 風鈴(大人に対して)、文房具(小学生に対して)

クニンガン県知事

林業省地域保全・保護林局(グヌン・チレメイ国立公園事務所長が代理で受取)

グヌン・チレメイ国立公園事務所

JICA 関係者

クニンガン大学

チリムス郡

地元小学生

また、国立公園事務所よりヤマハ代表者と JICA 専門家に対して記念品(帽子)が贈呈され、地元音楽家による歌と演奏が披露された。

(iv) 感謝状授与

クニンガン県および国立公園事務所よりヤマハグループに対して感謝状が贈呈された。

(v) 苗木の引き渡し

地元小学生とヤマハグループの間で苗木の引き渡しが行われた。

(vi) 記念写真の撮影

式典会場および記念植樹サイトで参加者代表およびヤマハ関係者等による記念写真を撮影した。

(vii) 記念植樹

参加者全員が各々1本ずつ植樹した。(樹種については別添2)

(VIII) 記念碑(モニュメント)除幕

クニンガン県知事等による除幕と公認が行われた。

(ix) 昼食、イベント終了

☆メディアの反響

今回の記念植樹を取り上げたメディアは以下のとおりであった。

(1) じゃかるた新聞(2014年12月12日付け)

(2) クニンガン・レーダー(Radar Kuningan)(2014年12月11日付け)

<要約>

クニンガン県グヌン・チレメイ国立公園ランボシール地区の火災跡地における日本政府とヤマハ・ミュージック・インドネシアによる緑化活動が5年目を迎えた。

初年度は、詳細な現地植生調査に基づく樹種選び、2年目からは段階的に苗木づくりと植栽を進めている。昨年度まで37.5haに約38,000本の植栽を行い、最終年度では計約50haに合計約50,000本の植栽となる予定である。

ヤマハ・コーポレーション・ジャパンの山下総務部長は「回復活動に関わる全ての関係者の協力が必要である。若い世代の人々が森の大切さを理解してくれることを望んでいる。」と述べた。クニンガン県知事は「環境を配慮したシステムづくりと環境の質を高める援助が必須であり、また動植物を含む生物多様性の保護・活用に係る活動へのサポートが必要である。」と説明した。

(3)チレメイ・ポスト(Ciremai Post)(2014 年 12 月 10 日付け)

<要約>

ヤマハ・ミュージック・インドネシアはクニンガン大学、グヌン・チレメイ国立公園、JICA と共にチリムス郡スティアネガラ村のグヌン・チレメイ国立公園内ランボシール地区にて植樹によるクニンガン県への協力を行っている。

「ヤマハの森」植樹イベントに際して、ヤマハ株式会社人事・総務部長の山下氏は「回復活動はグヌン・チレメイの山火事跡地等を元の森林に戻すために 2010 年より実施している。」と語った。

また、PT ヤマハ・ミュージック・インドネシア取締役社長の笠井氏は「ヤマハの森の活動が森を再生させ生態系回復を実現させることを願っている。10 年後、生物多様性を伴った美しい森の再生に加え、この森は地域貢献にも寄与することになる。エコツーリズムにより地域の収入が増え、グヌン・チレメイ周辺の地域住民の水源がより豊かになる。重要なのは、我々大人がリーダーとして、次の世代の子供達に環境教育や森の大切さ等を伝えていくことである。」と語った。

(4)チレボン TV

(注) 上記(4)は放映の有無と放映内容について問い合わせ中である。

9. 所感

2010 年度よりスタートした「ヤマハの森」記念植樹は今回が最終回として実施された。記念碑(モニュメント)製作等も含めた式典の準備は、当日の朝までの修正・改善を通して、イベント直前に完了した。

当日はジャカルタークニンガン間にあるインDRAMユ郡内の村長選挙等があり、イベント開始が大幅に遅れることになった(その間、クニンガン県知事を 30 分程待たせてしまうことになった)。

モニュメントの除幕式については、ヤマハ代表者 2 名、クニンガン県知事、国立公園所長、JICA 代表者の 5 名で実施する予定であったが、クニンガン大学担当者が県知事を乗せた車だけを先に除幕式の場に案内したため、午後からの予定を急ぐ県知事の意向により日本人関係者抜きで除幕式が行われてしまう結果となり、非常に残念であった。

今回、イベント植樹に加えて地元小学生(約 50 名)への環境教育をクニンガン大学学生や国立公園事務所職員、プロジェクトスタッフ等が実施できた点は良かった。

これまでの植樹祭を含む「ヤマハの森づくり」をきっかけに、より多くの人々がグヌン・チレメイ国立公園の荒地地回復活動に参加することを期待するとともに、回復事業のモデルとして国立公園を主体とした関係者への継承・活用の後押しを進めていきたい。

(写真)



地元小学生への環境教育



イベント会場の様子



挨拶をするクニンガン大学学長



グヌン・チレメイ国立公園事務所長



ヤマハ本社山下人事・総務部長



ヤマハ・ミュージック・インドネシア笠井取締役社長



JICA 宮川チーフアドバイザー



クニンガン県知事



国立公園所長からの感謝状および記念品の授与



クニンガン県知事からの感謝状授与



植栽する苗木の受け渡し



記念植樹の様子



参加者代表者による集合写真



ヤマハ関係者等による集合写真

(完)